九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

西欧中世文書の史料論的研究 ： 平成23年度研究成果年次報告書

岡崎，敦
九州大学大学院人文科学研究院 ： 助教授

ドリュモー，ジャン＝ピエール
レンヌ第2大学 ： 元教授

高橋，一樹
国立歴史民俗博物館 ： 准教授

城戸，照子
大分大学経済学部 ： 教授

他

https://hdl.handle.net/2324/1932630

出版情報：2012-03
バージョン：
権利関係：

ラテン語で書くか俗語で書くか
―14～15 世紀のフィレンツェ共和国の文書作成―

徳橋　曜

はじめに

中世の北・中部イタリアでは、議事録や都市法、都市財務記録等の公文書は必ず書記である公証人によって作成され、その言語は基本的にラテン語、即ち正式の文語にして公正証書で用いられた言語で書かれた。しかし、14～15 世紀の公文書には俗語で書かれたものも混在する。中世イタリアの俗語文学については膨大な研究が蓄積しているが、俗語の公文書にはあまり目が向けられてこなかった。そこでここでは、文書のあり方の一つの局面として文書の言語の問題を取り上げる。

1. 中世末期フィレンツェの俗語文化と教育

14～15 世紀のフィレンツェは文字文化の著しい発展を見る。都市社会の中・上層を占める商人層にとって読み書きや計算術・簿記は必須とされ、一般に商人の子弟は、私塾や都市が設けた学校で 6～12 歳頃に読み書きを学んだ後、あるいは 14 歳頃まで算術や商業実務基礎を学んだ後に奉公に出た。こうした環境で、年代記や小話集を著す能力を持った「物書き商人」が、俗語文化を開花させたのである。

他方、ラテン語教育の需要は限定的であったが、初等教育で用いられる教材にはドナートゥス『小文法』のようなラテン語教材が用いられた。文字教育の基本が俗語とラテン語のいずれであったかについては、研究者の間でも議論があるが、15 世紀初頭の商人モレッリは 10 歳で亡くなった息子について、「この子は 4 歳の時、自分から学校に行きたがり、6 歳で詩篇を、8 歳でドナートゥスを覚えた。そして書くことも覚えて、従兄弟達や母親が別荘にいる時に、自筆の手紙を彼らに書くほどになった。9 歳になってラテン語をやり、また商業書簡の読み方を学んだ」（『覚書』）と記している。父親の欲目を割り引いても、俗語とラテン語の両方の教育が施された可能性は否定できない。幼時に父親を失った孤児が自立するための心得として、彼は「子供のうちに読み書きを学ぼうと努め、学者の書いたものや公証人の証書やその他の書類が読めるぐらいに、同時に、ラテン語の正確な話し方と正しい文章の書き方が分かるぐらいに、文法［ラテン語］も学ぼうと努めなければならない」（傍点筆者）とも述べているからである。

2. 公文書におけるラテン語と俗語

一般的に商人層はどの程度ラテン語を理解できたのか。「勉強中、好きなだけウェルギリウスと過ごせる……キケロと過ごせば、完璧な話し方を、アリストテレスと過ごせば、哲学を教えてくれよう」とモレッリは孤児に古典の読書を勧め、13 世紀末～14 世紀前半の商人・年代記作者ヴィッラーニはローマ巡礼の際、「ウェルギリウス、サッルスティウス、……リウィウス、その他の偉大な歴史家によって書かれたローマ人の偉業の物語を読んだ」という。しかし、その彼が「学識ある者と同様に一般人も［歴史叙述の］成果と喜びを汲み取ることができるよう、この本は平易な俗語で忠実に記述しよう」と述べるように、ラテン語が日常的に通用した訳ではない。

実際、公文書の文言からも公事における俗語使用がうかがえる。1302 年にシエナで作られた公証人文書の書式集には、ラテン語と俗語併記の結婚契約書式が含まれる。13 世紀のピサ農村地域へ派遣される役人のマニュアルによれば、農村の役人に対して公証人は「一語一語、俗語で」都市法を読み上げ、14～15 世紀のフィレンツェの評議会議事録は、規定も手続きとして書記たる公証人が請願や議案を「明瞭に解りやすく俗語で読み上げ、朗読した」（legi et recitavi vulgariter distinte et ad inteligentiam）ことを明示する。

また、14 世紀以降の農村コムーネの条例には俗語のものが少なくなく、同時期のフィレンツェ領域の条例改変記録でも主要都市の条例がラテン語であるのに対し、農村コムーネの条例はしばしば俗語で書かれている。無論、書記たる公証人の能力の問題ではなく、当該住民の理解力に応じて元々俗語だったのである。フィレンツェの都市法にしても、正式の条例がラテン語で書かれる一方、条例の俗語訳が残されている。特に 1355 年のカピターノ条例とポデスタ条例の俗語訳には羊皮紙が使われ、正式の条例とほぼ同様の体裁ともなっており、一時的な便宜で作成された単なる写しとは思われない。

3. 保管記録における言語の選択の意味

フィレンツェに限らず、14～15 世紀の北・中部イタリアでは、俗語の都市法やギルド規約あるいはラテン語からの俗語訳がしばしば作られた。ピサ商業裁判所は 1321 年に、1305 年制定のラテン語の規定集の俗語訳を作った。フィレンツェでは宿屋ギルドが、1338 年制定のラテン語規定集の俗語訳を 1370 年以前に作成し（冒頭～1369 年の追加記事の筆跡と、これ以降の追加記事の筆跡が異なる）、また医師・薬種商ギルドは 1349 年制定の規定集の俗語訳を 1435 年頃に作って、これに 16 世紀まで随時、改正記事を追加している（冒頭～1435 年の追加記事は同一の筆跡で、以後の記事は別の複数の手になる）。後者の事例で興味深いのは、ラテン語の正本にも 1349 年以降の項目改定記事が追加されるなか、ラテン語ではなく俗語で書かれた記事（俗語訳と同内容）が 1376 年以降、特に 15 世紀に散見されることである。

こうした背景には一般市民のラテン語理解力の不足と、同時に俗語に関する識字能力の向上もあった。彼らにとってラテン語は理解不能な言語ではなかったにせよ、俗語であれば理解はより容易であった。前述のように、都市の中・上層市民にとって識字能力が必須だったからである。都市法やギルドの規定は役職に就いた市民やギルド成員が参照するものであったが、そのラテン語正本と同様に作られた俗語訳の存在は、日常的な参照の便として理解のより容易な俗語が選ばれた可能性をうかがわせる。また医師・薬種商ギルドの事例のように、具体的な追加情報が俗語主体で書かれることもあった。

14 世紀後半以降、公文書の言語がラテン語に統一されているのは清書・保管の段階であって、具体的な問題検討や記載の追加の草案では俗語の割合が高くなっていった。フィレンツェの評議会議事録には①議事記録簿 protocolli・②決議録 registri・③保存簿 duplicati の 3 種類があって、②と③が羊皮紙に清書された保管記録で、15 世紀まで俗語が混入することはないのに対して、①は俗語の関連資料・メモ等も挿入された紙の記録であり、当局に出された請願や提案の原文もしばしば俗語で記されている。記録作成過程としてはまず①が作られ、①から正式の議事録として②が作られた。さらに保存用に②を複写したものが③である。①における俗語の多用は、日常言語たる俗語が公文書の中に入り込んでいることを象徴する。ラテン語は正式ではあるが保存用の言語であって、随時変化する状況や議論を記す言語ではなくなっていったのである。正式の外交文書がラテン語であるのに対して、領域行政官への指示等が俗語であるのも、無論、行政官の理解力に対応している。アルプス以北の都市行政では以前から進行していた公文書の俗語化がイタリアでは、少なくともフィレンツェでは漸くこの時期に進んだと言えよう。

おわりに

以上のような俗語化が進行するなかでも、文語としてのラテン語の地位は存続し、記録の正統性を示すべく使われ続けた。ここには、行政の担い手と文書の書記たる公証人とが機能分化していた（即ち後者が職業的にラテン語能力を有した）都市行政のあり方も影響している。とはいえ、公証人文書を除けば、イタリアでも 16 世紀には公文書の俗語化が進行するのである。

付言すれば、周知のごとく人文主義は都市政治に関わる一般市民の間で広まった。確かに人文主義的ラテン語は独特で、公文書や公正証書の俗化したラテン語とは異なるものの、特別な教育

を受けた学者だけでなく、教養ある上層市民の間でこれが共有されたのであって、その背景には都市の文化的環境、商人層の識字能力と古典への関心がある。しかし、こうした教養としてのラテン語への関心は、上述のような俗語化とは別に進行することになる。

Selected Bibliography

1. AA.VV., *Il notariato nella civiltà Toscana*, Roma, 1982
2. AA.VV., *Il notariato nella civiltà toscana*, Roma, 1985
3. AA.VV., *Notariato medievale bolognese*, Roma, 1977
4. AGNOLETTI, A. M. E. (a cura di), *Statuto dell'Arte della lana di Firenze (1317-1319)*, Firenze, 1940
5. ALBERTI, Leon Battista (a cura di ROMANO, R. - TENENTI, A.; a cura di FURLAN, F. nella nuova ed.), *I libri della famiglia*, Torino, 1994（レオン・バッティスタ・アルベルティ、池上俊一・徳橋曜訳『家族論』、講談社、2010）
6. ANSELMI, G. - PEZZAROSSA F. - AVELLINI L., *La «memoria» dei mercatores*, Bologna, 1980
7. ARRIGHI, V., *Gli statuti di Scarperia del XV secolo*, Firenze, 2004.
8. BARBADORO, B. (a cura di), *Consigli della Repubblica fiorentina*, I, Bologna, 1921
9. BEC, Ch. (a cura di)*, Il libro delgi affair proprii di casa de Lapo di Giovanni Niccolini de' Sirigatti*, Paris, 1969
10. BEC, Ch.*, Les marchands écrivains a Florence 1375-1434*, Paris, 1967
11. BLACK, R., Humanism and Education in Renaissance Arezzo, *I Tatti Studies*, 2, 1987
12. BONAINI, F. (a cura di), *Statuti inediti della città di Pisa dal XII al XIV secolo*, Firenze, 1854
13. BOURGAIN, P. *Le latin medieval*, Turnhout, 2005
14. BRANCA, V. (a cura di), *Mercanti scrittori*, Milano, 1986
15. BRUNI, Leonardo [Leonardo Bruni Aretino] (a cura di MONZANI, C.), *Istoria fiorentina tradotta in volgare da Donato Acciajuoli*, Firenze, 1861
16. CALLERI, S., *L'Arte dei giudici e notai di Firenze nell'età comunale e nel suo Statuto del 1344*, Milano, 1966
17. CIASCA, R. (a cura di), *Statuti dell'Arte dei medici e speziali*, Firenze, 1921?
18. CICCHETTI, A. - MORDENTI, R. (a cura di), *I libri di famiglia in Italia,* I. *Filologia e storiografia letteraria*, Roma, 1985
19. FRUGONI, C. (a cura di), *Il Villani illustrato. Firenze e l'Italia medievale nelle 253 immagini del ms. Chigiano L VIII 296 della Biblioteca Vaticana*, Città del Vaticano - Firenze, 2005
20. G. Fasoli - P. Sella (a cura di), *Statuti di Bologna dell'anno 1288*, Città del Vaticano, 1937-1939
21. GHIGNOLI, A., (a cura di), *I brevi del comune e del popolo di Pisa dell'anno 1287*, Roma, 1998
22. GIOMBI, S., *Libri e pulpiti. Letteratura, sapienza e storia religiosa nel Rinascimento*, Roma, 2001
23. GRAFF, H. J., *Storia dell'alfabetizzazione occidentale*, 1. *Dale origini alla fine del Medioevo*, Bologna, 1989.
24. GREEN, L., *Chronicle into History. An Essay on the Interpretation of History in Florentine Fourteenth-century Chronicles*, Cambridge, 1972
25. GRENDLER, P. F., *Schooling in Renaissance Italy. Literacy and Learning, 1300-1600*, Baltimore, 1989
26. HAYEZ, J., Io non so scrivere a l'amicho per siloscismi: Jalons pour une lecture de la lettre marchande toscane de la fin du Moyen Age, *I Tatti Studies*, 7, 1997
27. KLAPISCH-ZUBER, Ch., Le chiavi fiorentine di Barbablù: l'apperendimento della lettura a Firenze nel XV secolo, *Quaderni Storici*, 57, 1984
28. KLEIN, F. (a cura di), *I consigli della Repubblica fiorentina. Libri fabarum XVII (1338-1340)*, Roma, 1995.
29. KRISTELLER, P. O., *Medieval Aspects of Renaissance Learning*, New York, 1992
30. MACHIAVELLI, Bernardo (a cura di OLSCHKI, C.), *Libro di Ricordi*, Firenze, 1954

31. MARTIN, H. (trans. by COCHRANE, L. G.), *The History and Power of Writing*, Chicago, 1988
32. MARZI, D., *La cancelleria della Repubblica fiorentina*, Firenze, 1910 (rist. 1987)
33. MASI, G. (a cura di), *Formularium florentinum artis notariae (1220-1242)*, Milano, 1943
34. MICHELI, G. – MICHELI, P. (a cura di), *Gli statuti di Cerreto Guidi del 1412*, Firenze, 1995
35. ONORI, A. M. (a cura di), *Lo statuto di Pescia del 1339*, Pistoia, 2000.
36. PALMAROCCHI, R. (a cura di), *Cronisti del Trecento*, Milano-Roma, 1935
37. PANDIMIGLIO, L., *I libri di famiglia e il libro segreto di Goro Dati*, Alessandria, 2006
38. PARENTI, Marco (a cura di GARFAGNINI, M. D.), *Ricordi storici 1464-1467*, Roma, 2001
39. R. COMMISSIONE PE' TESTI DI LINGUA NELLE PROVINCE DELL'EMILIA (a cura di), Collezione di opere inedite o rare dei primi tre secoli della lingua, Bologna, 1871
40. REDON, O. - RICCI, L. B. - BELTRAMI, P. G. - BRUNET, J. - GRIECO, A. J., *Les langues de l'Italie médiévale*, Turnhout, 2002
41. SANTINI, P. (a cura di), *Documenti dell'antica constituzione del comune di Firenze*, Firenze, 1952
42. SARTI, N. (a cura di), *Gli statuti della società dei notai di Bologna dell'anno 1336*, Milano, 1988
43. SARTINI, F. (a cura di), *Statuti dell'Arte degli albergatori della città e contado di Firenze (1324-1342)*, Firenze, 1953 (rist 1967)
44. SBRICCOLI, M. *L'interpretazione dello statuto. Contributo allo studio della funzione dei giuristi nell'età comunale*, Milano, 1969
45. STOCK, B., *Listenting for the Text on the Uses of the Past*, Baltimore, 1990
46. VERGER, J., *Men of Learning in Europe at the End of the Middle Ages*, Notre Dame (Indiana), 1997
47. VILLANI, Giovanni, (a cura di PORTA, G.), *Nuova Cronica*, Parma, 1990-1991
48. WITT, R., What Did Giovannino Read and Write? Literacy in Early Renaissance Florence, *I Tatti Studies*, 6, 1995
49. パトータ、ジュゼッペ（岩倉具忠監修・橋本勝雄訳）『イタリア語の起源　歴史文法入門』，京都大学学術出版会，2002
50. 徳橋曜「中世イタリアにおける公証人の社会的位置づけ」『公証法学』，36，2006